

文化財の修理事業

重厚な蔵造りや千数百年前の巨大な古墳、れんが積み水の門など、市内に点在する文化財を後世に伝えていくためには、定期的な修理や環境整備が欠かせません。しかし、ひとくくりに文化財と言ってもその性質や素材は実にさまざまです。

例えば、山車。骨組みの部分や精巧な彫り物は木材で、漆が塗られている部分もあります。車輪には金輪がはめ込まれていたり、幕や人形衣装には絹糸や金糸が使われていたりもします。また、人形の顔には胡粉が塗られているなど、さまざまな素材が組み合わさってひとつの文化財を構成しています。それぞれの修理となると、その方法や考え方は当然、異なります。

しかし、文化財の修理に共通するのは、当初重視と現状維持の原則です。残せる部分ではできるだけ残して、どうしても取り換えなければならぬ部分だけは新たな部材で補います。幕や人形衣装などは消耗が激しいため、修理できないくらい傷んでしまった場合は、同じものを新調して取り換えます。そうすることで部材は新陳代謝していきますが、製作当時の構造や意匠は受け継がれ、文化財の姿かたちをそのまま後世に伝えることが可能となります。



今年3月、復元新調が完了した大手町の山車人形「細女」のはかま



トマト

健康や美容に良いとされるリコピンが豊富に含まれているト

マト。その多くは、実はハウスで栽培されています。「ハウス栽培は、露地栽培に比べて育つのに時間がかかりますが、甘く育ちます」と話すのは、栗原政仁さん(南田島)。ハウス内では風がなく花粉が飛ばないため、マルハナバチという蜂を放す等の方法で、受粉をさせています。ハウス栽培でも寒い時期は病気になりやすく、苦労することが多いそうです。



おいしい食べ方を伺うと、「採れたてを丸かじりするのが一番」と笑顔で答えてくれました。一年中採れるハウストマトですが、5月ごろが一番おいしいとのこと。乾燥に強く、水をやりすぎるのは良くないそうですが、今年は様子を見ながら多めに散水したところ、「今年のトマトは特においしい」と評判なんだとか。

6月末ごろまで伊佐沼農産物直売所などで販売している採れたてのトマト。ぜひ食べてみてはいかがでしょうか。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜
 トマト、フキ、チンゲンサイ、キヌサヤ、キャベツ、ネギ、ブロッコリー、ホウレンソウ、コマツナ、キュウリ、カブ、ダイコン、レタス、新夕マネギ

おいしい食べ方を伺うと、「採れたてを丸かじりするのが一番」と笑顔で答えてくれました。一

おいしい食べ方を伺うと、「採れたてを丸かじりするのが一番」と笑顔で答えてくれました。一



「昇殿一つ打ちの舞」で高沢橋を渡りました。町内を踊りながら歩く珍しい獅子に多くの人が足を止め、その独特の舞に見入っていました。

この獅子舞は、石原の町内回りをを行う本祭りと、観音寺(石原町一丁目)境内のみで舞う陰祭りがあり、毎年交互に行われます。今年の本祭りにあたる年で、17日の演舞では町内回りを行った後に、3歩進んで2歩下がる、「昇殿一つ打ちの舞」で高沢橋を渡りました。町内を踊りながら歩く珍しい獅子に多くの人が足を止め、その独特の舞に見入っていました。

編集後記
 どんぐり